



7・11「男子
部結成の日」

常に新しい
何かをつくれ

夏雲は青年を思わせる。刻一刻と形を変え、とどまることがない。上へ上へと湧き上がる。

場所は長野の霧ヶ峰。1999年（平成11年）8月だった。池田名誉会長がカメラに収めた。

同地を初めて訪れたのは58年（昭

和33年）。高原の空と緑と風に、「戸田先生をお連れしたかった」との思いが去来した。そして、恩師に代わって、青年を愛し、薫陶することを誓ったのである。

来る7月11日は、男子部の結成記念日。創価の民衆運動の未来を担う

行動と実証こそ、名誉会長が示した男子部の道である。今月、各地で創価体験談大会、東京では全国男子部幹部会が開かれる。青年を先頭に、青年を励ましなが、新しい勝利の曲を奏でよう。 ※ゲーテの言葉は『ファウスト』相良守肇訳（岩波書店）

聖 教 新 聞

2015年(平成27年) 7月5日(日)

何でもよい。
何かに挑戦していく。
それが青年の宝である。
常に「何か」に挑戦し、
新しいものをつくり、
開いていく——
その挑戦の行動に、

「信頼」という、
青年にとって最高の財産が、
自然のうちに光り輝いてくる。

本当の「善人」とは
「悪と戦っている人」のことである。
仏法は、人間を不幸にする魔との

「限りなき闘争」である。
悪を厳しく責めるのは、
それが「正しい」ことだからである。
そして、「正しい」ことは
「強い」ことである。
強くなければ、
正義を貫くことはできない。
「正義」は「勇気」である。

一人の青年が、
妙法という「生命の尊厳」の
究極の法理を持ち、
立ち上がるならば、
家庭も、職場も、地域も、
そこから必ず大きく変わっていく。
ゆえに青年に仏法を語り、
仏縁を広げゆくことほど、
地道にして確実な
「幸福」と「平和」の王道はない。



ルクセンブルクを初訪問。到着した中央駅で、運営役員の青年を激励する池田名誉会長。いついかなる時も、青年を見つめ、励まし、育てる（1991年6月）

仏法の因果律から見れば、
青年は「本因」の立場である。
青年の「熱」と「力」が燃え尽きる
魂の溶鉱炉から、
壮大なる未来が
創り出されていくのだ。
大詩人ゲーテは、
丈夫ファウストに、こう語らせた。
「休みなく活動するものこそは男だ」
一日一日が、活動である。
時々刻々と、戦いだ。
そこに、向上がある。
そこに、前進がある。
そこに、開拓がある。